

バットレス敗退＋白根三山往復

NO2

2014.9.5-6



4時15分小屋出発、5時農鳥岳頂上着。快晴だが強く冷たい西風が吹く。日の出を待つ。

4.45



南方では黎明の中、塩見岳が深い眠りから覚めつつある。

4:57



北方には昨日霧の中を下った間の岳。ちぎれ雲が風に乗って乗越を越えてゆく。

4:59



上空に絹雲乱舞。富士山に笠雲。悪天の兆しか？

5:02



西風が強まり乗越を越える雲が増える。山の天気は変わりやすい。今日はこれからどうする？
やや迷ったが来た道に戻り、稜線歩きを楽しむことにした。さて、楽しめるか？

5:04



5:08

夜明けの空を雲が流れる。この眺めの素晴らしさを見て接しなければ分らない。写真も文章も何の役にも立たない。



ようやく太陽が昇る。

5:18



富士川の源流荒川本谷が朝陽に輝く。

5:27



この時間に稜線にいて良かった。

5:31



農鳥岳が朝陽に染まり色を変える。

5:34



縦走路には細かい石が敷き詰められ、とても歩き易い。
長い年月を経て作られてきた道だ。
乗越を行く雲が薄物のベールの様な形を見せ始めた。

5:43



農鳥岳（3026m）が絹雲のベールをかぶる。

6:01



大気の舞踏？



昨年12月、大雪で雲のあたりで敗退した塩見岳(3052m)。



間の岳頂上で踊るようにして写真を撮りまくる登山者。いかにも嬉しそう。

6:36



北岳（3193m 手前）と、甲斐駒ヶ岳（2967m 奥）、そして八ヶ岳の大型山稜。

6:36



昨日このあたりは暴風雨だった。

7:09



中白根岳より間の岳。高度3千mを超える道。

8:19



仙丈岳（3033m 左）と甲斐駒ヶ岳（2967m 右）。
この位置はぼくにはおそらく40年ぶりの眺め。

7:22



北岳

7:27



北岳草保護地区

登山者が出払った北岳小屋はガランとしていてちょっとのぞいただけで素通りしてトラバース道に入った。6月の花の盛りにOB達が見に来たと言う北岳草の群生地を通った。すっぱり金網がかぶせられそこだけ植物園。

7:57

北岳トラバースルート:

八本歯に出るには登り返しが少ないのでトラバースルートが楽だ。しかし、斜面は結構崩壊しておりあちこちに階段がある。日本第2の高峰として人気のあるせいだ。



8:17

8:51

北岳バットレス4尾根

8:44



2008年春以来この場所での岩登りを目ざして準備を進めてきた。しかし、なかなか実現せず、今回は3度目の挑戦だった。ところが登攀予定日は大雨、それまでの悪天続きに嫌気をさしていた主要メンバーは早々に下山してしまった。ぼくは一人で大雨の中を縦走に出た。しかし、翌日は大快晴。一日待って登攀したかったなどという思いも湧いたが、それ以上に稜線の景観は素晴らしかった。八本歯からの下りがけに4尾根を見上げて悔しさは無かった。



大樺沢

8:59

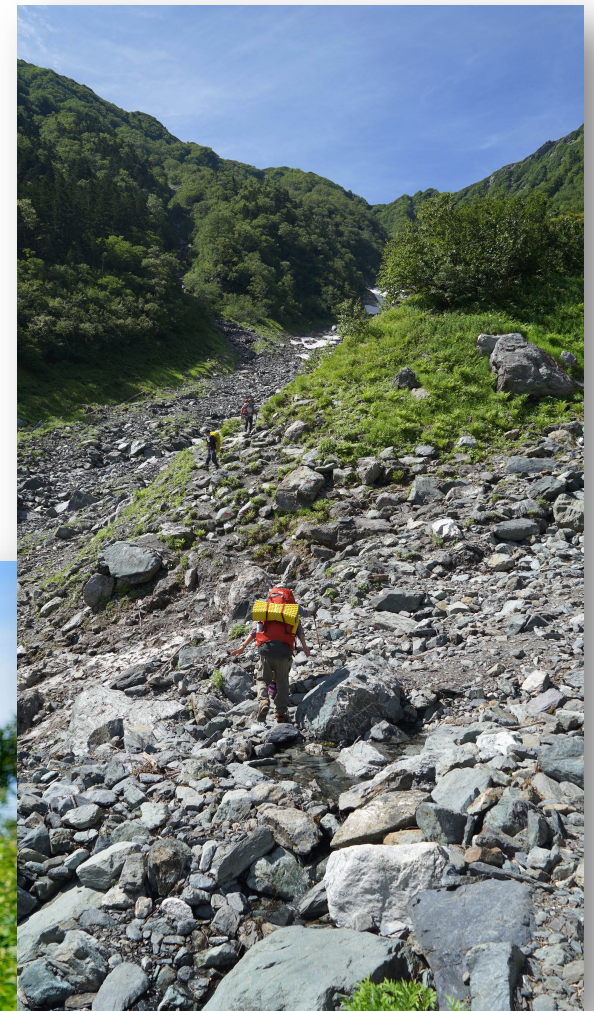
9:01

大快晴の日に入山できる幸せな登山者が大勢登って来る。でも山ではこの晴れもいつまでもつかは分らない。



OB本間さんはバットレス登攀計画の当初からサポート隊として様々な支援をしてきていた。初回の2008年には先行入山したものの大豪雨でとんぼ返りした。今回も期待の現役部員大田君を同伴をしつつぼくらを支援するために登攀予定日に入山してくれた。しかし、登攀はなくなり、2人で白根三山縦走をすることになった。

大樺沢を下り二股に着くと、本間さんの白髪が見えた。思わず「よヒトーツ」と声をかけたが沢音に消されて届かなかった。彼らの所まで下り着いて改めて声をかけた。隣にいるのが現役の大田君だった。テント、シュラフなどの主要装備を全て揃え意欲満々だ。2人を見送って広河原へ下った。 9:35



2人は北岳へ
ぼくは広河原へ。

9:45



2008年以来3度目のバットレスも敗退。ぼくの場合は岡山からと言う地の利の悪さからしてもうチャンスは無いだろうが白根三山の稜線を十分堪能した。

11:01



11:40

広河原の谷浴いに涼しい風が通り抜ける。野呂川のやたらにきれいでうまい水が豊富に流れ下る。こんな所でテント暮らしをするのも良さそうだ。
後刻聞いた所ではこの翌日は悪天で、本間・太田チームは北岳小屋から先へは進めず、広河原に戻って下山したとか。結局この夏の天気は散々だった。若い太田君には今後は是非再トライしてもらおう。

